

# HP Universal CMDB

Windows および Red Hat Enterprise Linux オペレーティング・システム向け

ソフトウェア・バージョン: 10.00

---

## リリース・ノート

ドキュメント・リリース日: 2012 年 6 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日: 2012 年 6 月 (英語版)



## ご注意

### 保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2002 - 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

本製品には 'zlib' 汎用圧縮ライブラリのインタフェースが使用されています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの取得登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品 サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>

HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDの登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)

---

# 目次

リリース・ノート .....	1
目次 .....	5
HP UCMDB および HP Configuration Manager リリース・ノート .....	6
HP Universal CMDB 10.00 ファイル/コンポーネント .....	6
システム要件 .....	7
HP UCMDB および HP Configuration Manager デプロイメント・ガイド .....	7
HP UCMDB のインストール .....	8
HP 構成 マネージャのインストール .....	9
アダプタのアップグレード .....	10
ディスカバリ・ナレッジ・コンテンツ .....	10
コンテンツ・パックの文書の更新 .....	10
注意事項および制限事項 .....	10
UCMDB のインストール .....	11
UCMDB のアップグレード .....	11
構成 マネージャのアップグレード .....	12
HP UCMDB .....	12
構成 マネージャ .....	15
コンテンツ・パック .....	17
モデリング .....	19
ユニバーサル・ディスカバリ .....	21
インテグレーション .....	22
連携 .....	22
レポート .....	22
LW-SSO .....	22
LDAP .....	22
多言語サポート .....	23
修正された不具合 .....	23

# HP UCMDB および HP Configuration Manager リリース・ノート

このファイルは、HP Universal CMDB(UCMDB)バージョン 10.00 および HP Configuration Manager バージョン 10.00 についての情報を提供するものです。

## HP Universal CMDB 10.00 ファイルコンポーネント

HP UCMDB 10.00 には次のファイルコンポーネントを収録した2つのDVDが付属しています。

DVD	含まれるファイル
Windows 用の DVD 1	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>HPUCMDB_Server_10.00.exe</b> : Windows プラットフォーム用のバージョン 10.00 HP UCMDB Server のインストールを開始します。</li><li>• <b>HPUCMDB_DataFlowProbe_10.00.exe</b> : Windows プラットフォーム用のバージョン 10.00 HP Universal Discovery Data Flow Probe のインストールを開始します。  このインストーラは、スタンドアロン・インストールに Universal Discovery インベントリ・ツールをインストールするためにも使用できます。</li><li>• <b>HPCM_10.00.exe</b> : Windows プラットフォーム用のバージョン 10.00 HP UCMDB Configuration Manager のインストールを開始します。</li></ul>
Linux 用の DVD 2	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>HPUCMDB_Server_10.00.bin</b> : Linux プラットフォーム用のバージョン 10.00 HP UCMDB Server のインストールを開始します。</li><li>• <b>HPUCMDB_DataFlowProbe_10.00Linux.bin</b> : Linux プラットフォーム用のバージョン 10.00 HP Universal Discovery Data Flow Probe のインストールを開始します(統合用のみ)。</li><li>• <b>HPCM_10.00.bin</b> : Linux プラットフォーム用のバージョン 10.00 HP UCMDB Configuration Manager のインストールを開始します。</li></ul>
両方の DVD	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>Deployment_Guide</b> : 起動ファイルを含む『インタラクティブ・デプロイメント・ガイド』のファイルが含まれます。<ul style="list-style-type: none"><li>▪ <b>Launch_Deployment_Guide.htm</b></li><li>▪ <b>強化ガイド</b>(HardeningGuide.pdf)</li><li>▪ <b>Upgrader Reference</b>(Upgraders.pdf)</li><li>▪ <b>データベース・ガイド</b>(DatabaseGuide.pdf)</li></ul></li><li>• <b>サポート・マトリクス</b>(SupportMatrix.pdf)</li><li>• <b>リリース・ノート</b>(release_notes.pdf)</li><li>• <b>Third_Party_Agreements</b> : 次のサブフォルダが含まれます。<ul style="list-style-type: none"><li>▪ <b>HPUCMDB</b> : HP UCMDB のライセンスおよびサード・パーティ関連文書が含まれます。</li></ul></li></ul>

DVD	含まれるファイル
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>HPCM</b> : HP UCMDDB-Configuration Manager のライセンスングおよびサード・パーティ関連文書が含まれます。</li> <li>● <b>Product_Feature_Movies</b> : UCMDDB 10.00 の新しいムービーを含む UCMDDB 機能紹介ムービーが含まれます。 <b>movies.html</b> をダブルクリックすると、各ムービーの短い説明が表示されます。</li> <li>● <b>End_to_End_Scenarios</b> : その他の HP 製品と HP UCMDDB を併用する一般的なサンプル・ワークフローが含まれます。</li> </ul>

注 : UCMDDB バージョン 10.00 には、ディスクバリエーションおよび統合コンテンツ・パック 11 と UCMDDB ブラウザ 1.7 が含まれます。

## システム要件

システム要件のリストについては、[HP Universal CMDB Installation DVD] のルート・フォルダにある『HP Universal CMDB サポート・マトリックス』ドキュメントを参照してください。

注 :

- 10.2.0.5 より前の Oracle バージョンを使用している場合、Oracle 不具合番号 5866410 を修正する Oracle パッチを適用しなければなりません。詳細については、Oracle の Web サイトでこの不具合番号に関連した情報を確認してください。
- いずれかの Oracle バージョンを使用している場合、UCMDDB10.00 には Oracle デプロイメントのいくつかのパフォーマンス改善が含まれています。これらの利点を得るには、Oracle スキーマに以下の権限を付与する必要があります。
  - **grant create type to <cmdb\_schema\_name>**

## HP UCMDDB および HP Configuration Manager デプロイメント・ガイド

UCMDDB および構成マネージャのデプロイメントに関する指示は、対話式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』で提供されます。

このガイドにアクセスするには、[UCMDDB Installation DVD] のルート・フォルダの **Deployment\_Guide/Launch\_Deployment\_Guide.htm** を開きます。

注 : 画面上にカスタマイズしたドキュメントを表示したり印刷することができます。

- カスタマイズしたドキュメントの表示は、UCMDDB がサポートするすべてのブラウザでサポートされます。
- コンピュータにインストールされた PDF 印刷ドライバがある場合は、[印刷] をクリックして、選択内容に応じてカスタマイズされた PDF ドキュメントを作成します。PDF 印刷ドライバはいくつかのオープン・ソースおよびサード・パーティ・プロバイダから提供されています。

## HP UCMDB のインストール

現在のデプロイメントに基づき以下のいずれかの手順を選択して UCMDB をインストールします。

現在のインストール	プラットフォーム	命令
インストールなし	Windows	<p>次のファイルを実行します。</p> <p><b>UCMDB DVD Root Directory\HPUCMDB_Server_10.00.exe</b></p> <p>インストールの説明については、対話式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』を参照してください。</p> <p>選択：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Install HP UCMDB 10.00</li> <li>• Windows</li> <li>• データベース</li> <li>• 高可用性環境をインストールするかどうかを選択します。</li> </ul>
インストールなし	Linux	<p>次のファイルを実行します。</p> <p><b>UCMDB DVD Root Directory\HPUCMDB_Server_10.00.bin</b></p> <p>インストールの説明については、対話式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』を参照してください。</p> <p>選択：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Install HP UCMDB 10.00</li> <li>• Linux</li> <li>• データベース</li> <li>• 高可用性環境をインストールするかどうかを選択します</li> </ul>
HP UCMDB 9.05	Windows/Linux	<p>UCMDB 9.05 からのアップグレードの説明については、対話式の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』を参照してください。</p> <p>選択：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• UCMDB サーバのアップグレード</li> <li>• UCMDB サーバ・プラットフォーム</li> <li>• データベース</li> <li>• 既存の高可用性環境をアップグレードするか、高可用性環境にアップグレードするかを選択します。</li> </ul>
HP UCMDB	Windows/Linux	<p>UCMDB 9.05 の HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド に記載された説明に基づいて、UCMDB バージョン 9.05 にアップグレードしま</p>



現在のインストール	プラットフォーム	命令
9.04 以前		<p>す。このガイドは、HP ソフトウェアのサポート・オンライン Web サイトの UCMDB 9.05 ドキュメントでダウンロード可能です。</p> <p><b><a href="http://support.openview.hp.com">http://support.openview.hp.com</a></b></p> <p>そして、上記の UCMDB 9.05 からのアップグレードの説明に従います。</p>

## HP 構成マネージャのインストール

現在のデプロイメントに基づき以下のいずれかの手順を選択して構成マネージャをインストールします。

現在のインストール	プラットフォーム	命令
インストールなし	Windows/Linux	<p>UCMDB 10.00 がインストールされていることを確認します。</p> <p>インストールするマシンで次のファイルを実行します。</p> <p>Windows : <b>UCMDB DVD Root Directory\HPCM_10.00.exe</b></p> <p>Linux : <b>UCMDB DVD Root Directory\HPCM_10.00.bin</b></p> <p>インストールの説明については、対話型の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』の [Install HP Configuration Manager 10.00] を選択してください。</p>
HP UCMDB 構成マネージャ 9.3x	Windows/Linux	<p>構成マネージャ 10.00 へのアップグレードに関する説明は、対話型の『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』の [Upgrade to HP Configuration Manager 10.00] を選択してください。</p> <p><b>注</b> : HP 構成マネージャは、クリーンな UCMDB Server 10.00 インストール上ではアップグレードできません。</p>
HP UCMDB 構成マネージャ 9.2x 以前	Windows/Linux	<p>バージョン 9.3x の『HP UCMDB および HP Configuration Manager デプロイメント・ガイド』に記載された説明に基づいて、構成マネージャ 9.3x にアップグレードします。このガイドは、HP ソフトウェアのサポート・オンライン Web サイトの構成マネージャ 9.3x ドキュメントでダウンロード可能です。</p> <p><b><a href="http://support.openview.hp.com">http://support.openview.hp.com</a></b></p> <p>そして、上記の構成マネージャ 9.3x からのアップグレードの説明に従います。</p>

## アダプタのアップグレード

標準で用意されているすべてのアダプタ:以前のバージョンでアダプタ構成を変更した場合、そのバージョンからのすべてのアダプタ・ファイルを保存して、バージョン 10.00 のアダプタ・ファイルの変更をやり直すことを強くお勧めします。

## ディスカバリ・ナレッジ・コンテンツ

ディスカバリ・ルール・コンテンツ・ファイルおよびソフトウェア・アプリケーション・インデックス(SAI)コンテンツ・ファイルを含むディスカバリ・ナレッジ・コンテンツの更新は、Hewlett-Packard から定期的リリースされます。HP ディスカバリおよび依存関係 マッピング・インベントリ・コンテンツの更新に含まれていたすべてのコンテンツ更新は、Universal Discovery にも含まれています。

ディスカバリ・ルールには、お使いの環境のハードウェア・デバイスを識別する情報が含まれています。ディスカバリ・ルールにより、デバイスのオペレーティング・システム、アプリケーション、デバイス・ファミリ、モデルが決定されます。そして、ディスカバリ・ルール・エンジンはお使いのデバイス・モデルにデバイス・タイプを割り当てます。

SAI ファイルには、ディスカバリ・ノード上のアプリケーションを識別する情報が格納されています。Universal Discovery では、ファイルベースの認識機能、バージョン・データ、インストール済みパッケージ・ルールベースの認識機能といった多くのインストール済みソフトウェア・アプリケーション認識技術が作用されています。この認識に必要なデータは、アプリケーション・ライブラリ・ファイル(SAI)に格納されています。

最近リリースされたコンテンツで、このバージョンの Universal Discovery に現在含まれているものは、HP ライブ・ネットワーク内の Universal Discovery コミュニティ (<https://hpln.hp.com/group/universal-discovery/> (英語サイト)) の Web サイトで確認できます。

注：このサイトにログインするには HP Passport のユーザ名とパスワードが必要です。

## コンテンツ・パックの文書の更新

関連ドキュメントの最新版を読むには、次にアクセスします。

URL:

- [http://SERVER\\_NAME:PORT/ucmdb-ui/docs/DDMContent.jsp](http://SERVER_NAME:PORT/ucmdb-ui/docs/DDMContent.jsp) – ディスカバリと統合コンテンツ・ガイド
- [http://SERVER\\_NAME:PORT/ucmdb-ui/docs/permissions.jsp](http://SERVER_NAME:PORT/ucmdb-ui/docs/permissions.jsp) – 権限ドキュメント

## 注意事項および制限事項

UCMDB のインストール .....	11
UCMDB のアップグレード .....	11
構成マネージャのアップグレード .....	12
HP UCMDB .....	12
構成マネージャ .....	15

コンテンツ・パック .....	17
モデリング .....	19
ユニバーサル・ディスカバリ .....	21
インテグレーション .....	22
連携 .....	22
レポート .....	22
LW-SSO .....	22
LDAP .....	22
多言語サポート .....	23

## UCMDB のインストール

- インストール時にはユーザのデフォルト設定パスワードを変更できません(システム管理者や統合ユーザなど)。JMX コンソールを使用してパスワードを変更してください。

## UCMDB のアップグレード

- バージョン 10.0 へのアップグレード時には、履歴保存のために定義された期間よりも古いすべてのスナップショット(インフラストラクチャ設定 [保存履歴月数(過去)], デフォルト設定値: 3 か月)が削除されます。こうしたスナップショットに基づくすべてのカスタム・レポートは空になります。
- 旧バージョンの UCMDB の CI タイプを変更した後でバージョン 10.00 にアップグレードする際は、当該タイプまたは IT ユニバース・マネージャにおけるその子孫からの CI のショートカット・メニューから一部新しい機能が欠落する可能性があります。この場合、当該 CI タイプのアタッチ・メニューを編集し欠落している機能を追加してください。
- 9.x から 10.00 へのアップグレード時には、削除されたユーザのユーザ・プリファレンスが削除されます。ログに警告が表示され、アップグレードが正常に完了します。
- アップグレード中、ディスカバリ・モジュール CIT のパス属性の UNIQUE\_INDEX 違反例外が発生する可能性があります。旧バージョンでは、カラムには重複がある可能性があります。新しいバージョンでは UNIQUE\_INDEX 修飾子があります。このメッセージは、重複があったこと、および修飾子が追加されていないことを意味します。
- UCMDB 10.00 のサポートされている最低コンテンツ・パック・バージョンは Content Pack 11.00 であり、これは UCMDB 10.00 とともに自動でインストールされます。

**注：** Content Pack 9.01 からは、すべての Jython ベース統合がディスカバリ・コントロール・パネルから Integration Studio に移動しています。Content Pack 11.00 とともに UCMDB 10.00 をインストールしている間にこれらの統合ジョブのいずれかがアクティブである場合、アダプタは統合アダプタに変わらず、統合はディスカバリ・コントロール・パネルから引き続き稼働します。

- UCMDB 10.00 とともにインストールされた Content Pack 11.00 では、一部のディスカバリ・ジョブの名前が変更され、一部のパラメータとスケジュール設定が更新されました。UCMDB 10.00 への

アップグレード時にこれらの変更は行われません。これらの変更を確認するには、手動でパッケージをデプロイする必要があります。パッケージの手動デプロイの詳細については、HP Universal CMDB 管理ガイドを参照してください。

以前の名前	新しい名前
Host Resource and Applications by SNMP	Host Resource by SNMP
Host Resources and Applications by WMI	Host Resource by WMI
Host Resources and Applications by Shell	Host Resource by Shell
Host Resources and Applications by PowerShell	Host Resource by PowerShell
iSeries Connection	IBM i Connection
iSeries Objects	IBM i Objects
HP nPartitions by Shell	nPars and vPars by Shell
<discovery name> by NTCMD	<discovery name> by NTCMD or UDA

## 構成マネージャのアップグレード

- バージョン 9.3x からバージョン 10.00 へのアップグレード前に以下の手順を確認します。
  - a. 次の操作を実行します。
    - 構成マネージャのバージョン 9.3x インストール・フォルダをバックアップします。
    - 構成マネージャのバージョン 9.3x データベースをバックアップします。
    - 次の Windows レジストリ・エントリをバックアップします。
 

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion
\Uninstall\HP Universal CMDB Configuration Manager 9.30
```
    - 構成マネージャのデータベース上で次の SQL コマンドを実行します。
 

```
UPDATE CCM_CONFIGURATION_SETS SET NAME = REPLACE(NAME, ' ',
' _')
```
- バージョン 10.00 にアップグレードした後は、構成マネージャにログインすることはできません。この問題を解決するには、ブラウザのキャッシュをクリアして構成マネージャ・サーバを再起動します。
- バージョン 10.00 にアップグレードした後は、Google Chrome ブラウザでは[管理]モジュールを開くことができません。この問題を解決するには、ブラウザのキャッシュをクリアしてすべてのブラウジング・データを消去します。
- アップグレードすると、カスタマイズしたトポロジ・レイアウトの定義(レイヤのナンバリングを含む)はすべてリセットされます。

## HP UCMDB

- クライアント側を Java 7 アップデート 2 または 3 にアップグレードすると、ダイアログ・ボックスのテキスト・フィールドはフォーカスされずユーザは手動でこれらをクリックしてフォーカスする必要があります。

この制限事項は、Internet Explorer および Firefox ブラウザに影響します。Google Chrome ブラウザには影響ありません。

- 高可用性環境での作業の場合、その他の UCMDB クラスタへのフェールオーバーがあると、まず実行前に HP 統合サービスのデータをクリアしなければなりません。データを消去するには、`..\UCMDB\UCMDBServer\integrations\tools\clearProbeData.bat` を実行してください。
- Microsoft SQL Server とともにインストールされた UCMDB を使用する場合、UCMDB ではなくデータベースのデフォルト設定値から照合順序が取られます。データベース上の照合順序設定が UCMDB で定義された照合順序と一致することを確認する必要があります。
- [System Health] モジュールは UCMDB 10.00 では利用できません。
- 複数テナント環境の非管理ユーザがスナップショット比較レポートを作成すると、[Size] カラムに不正な値が表示されます。
- UCMDB サーバは、インフラストラクチャ設定マネージャでのディスクバリのためにサポートされているビューの最大 CI 設定が非常に高い値に設定されている場合には正しく起動しない場合があります。
- エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、CIT マネージャでは、いくつかの CIT とその接続関係を選択し [Export Map to Image with the Selected Object Only] オプションを選択すると、結果イメージに関係名が表示されなくなります。
- READ\_ONLY\_CLASS 修飾子が割り当てられている場合でも、CIT は編集できます。
- UCMDB ブラウザがマルチディスプレイ環境で実行されている場合には、画面キャプチャ・ツールではスクリーン・ショットをキャプチャできません。
- [ジョブリスト] ダイアログ・ボックス (スケジュールされたレポートまたはスナップショット) の [フィルタのクリア] ボタンは正しく機能しません。
- 影響分析マネージャで新しい影響ルールを作成したら、ウィザードの [影響ルールグループ] ページの [UCMDB] チェック・ボックスが選択されていない状態でも、作成した影響ルールを IT ユニバーズ・マネージャで実行できます。
- 「データベースに接続できませんでした」または「プールからの接続時のエラー」のエラー・メッセージが UCMDB `error.log` ファイル ( `C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\runtime\log` ディレクトリ内 ) に表示される場合は、以下を実行します。
  - a. `connection_pool.conf` ファイル ( `C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\conf` ディレクトリ内 ) を開きます。
  - b. 次のパラメータを追加またはマーク解除します。

**maxPoolSize=100**

`connection_pool.conf` ファイルは、データベース接続プールに関連するプロパティを設定するものです。デフォルト設定のコンテンツは次の通りです。

```
# DB 接続プールのデフォルト設定。
```

```
#maxPoolSize=100
```

```
#minPoolSize=2
```

```
#maxWaitForConnectionSec=10
```

```
#0=FAIL, 1=BLOCK, 2=GROW
```

```
#whenExhaustedAction=1
```

次の設定ができます。

- プール内の最大および最小接続数。
  - **whenExhaustedAction** - 新しい接続を要求しプール内に空き接続がない場合に何をするか。有効な値は失敗、待機 (BLOCK)、プールへの新規接続追加 (GROW) のいずれかです。
  - **maxWaitForConnectionSec** - 最大待機時間 (**whenExhaustedAction=BLOCK** の場合)。
- IT ユニバースでは、[Get Related] 表示枠から [Virtual Compound] リンクを右クリックすると [複合パスを表示] オプションが表示されます。
  - **dbtool consistency** ツールは、導入メッセージまたは警告メッセージなく実行されます。例えば、ユーザに対してデータのバックアップやツール実行前のサーバ停止についてのヒントは提供されません。さらに、ツールの影響を受けるスキーマも表示されません。
  - Javascript を使用して選択した CI の表示ラベルとクラス名を取得するため、以下の API が CI セレクタに追加されています。
    - String getSelectedCmdbObjectDisplayNames()
    - String getSelectedCmdbObjectClassNames()
  - 新しい retrieveAllActiveUsers() メソッドが JMX コンソールの UCMDB-UI:name=UCMDB Integration セクションで利用可能になりました。これは UCMDB バージョン 8.0x で利用できた getAllActiveUsers() メソッドと同等のものです。
  - HP Universal CMDB のオンライン・ドキュメントを Internet Explorer 8 で表示する場合、番号またはアルファベット順の一覧が文字化けする可能性があります。
  - UCMDB\_JavaAPI では、属性タイプが文字列または正数リストのタイプであった場合は XML 形式で文字列を返していた Attribute#getDefaultValue() メソッドが文字列または整数オブジェクトのコレクションを返すようになりました。
  - 汎用データベース・アダプタにいくつかのパフォーマンス改善がありました。
  - セキュリティ・マネージャの [ビュー] タブで削除権限が設定されビューが削除された場合、そのビューの依存先クエリも削除されます。
  - ルート・コンテキストを使用して UCMDB にアクセスすると、HP Universal CMDB Discovery のドキュメントおよび統合コンテンツ・ガイド PDF からのリンクが機能しない場合があります。デプロイしたコンテンツ・パックを含んでいた zip ファイルから正しい PDF にアクセスできます。
  - 複数顧客環境 (SaaS など) で作業する際は、単一データベースおよびスキーマで作業する必要があります。
  - 階層ツールバー検索を使用する場合、ユーザが検索テキストを追加し [すべてを折りたたむ] ボタンをクリックしても、何も起こらないかつリーの一部のみが折りたたまれます。
  - UCMDB を Oracle データベースで実行するとき、ログに **ORA-00942: テーブルまたはビューが存在しないエラー** が表示された場合はデータベースが準備したステートメント・キャッシュが破損している

ことを意味します。準備したステートメント・キャッシュを削除するには、Oracle 管理者としてログインして次の SQL コマンドを実行してください。

```
alter system flush shared_pool
```

- SaaS などの複数顧客環境での作業では、複数テナントはサポートされません。
- <UCMDB home>\conf\jetty.xml ファイルの sendServerVersion 設定が false に設定されている場合、Jetty のバージョンは HTTP 応答ヘッダに表示されません。
- 新しい検索エンジンが無効化されると、CI は UCMDB ブラウザのバージョン 1.7 で更新できません。インストール中にサーバ設定ウィザードのオプションを選択するか、インストール後にインフラストラクチャ設定マネージャを使用して新しい検索エンジンの有効化を選択できます。UCMDB ブラウザの設定および検索エンジンの有効化・無効化の詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』内の UCMDB ブラウザについて説明しているセクションを参照してください。

## 構成マネージャ

- 構成マネージャは、UCMDB の複数テナントまたは複数顧客のインストールをサポートしていません。
- ログイン・ユーザの名前が[ホーム]ページに表示されない場合、そのユーザの UCMDB にロケールが定義されていることを確認してから構成マネージャをログアウトし、再度ログインしてください。
- ポリシー・カテゴリ属性を使用してポリシー CIT をフィルタリングすることはできません。
- 構成マネージャと UCMDB が同じホスト上で実行されており、いずれのアプリケーションでも SiteMinder が使用されている場合は、いずれかのアプリケーションの AJP ポートをデフォルト設定値 (8009) から変更刷る必要があります。構成マネージャと UCMDB の AJP ポートが同じである場合は、SiteMinder はログオン時に構成マネージャをリダイレクトできません。
- 構成マネージャは、SiteMinder Web Agent が IIS Web サーバで作業するよう設定されている場合には SiteMinder との統合をサポートしません。
- SiteMinder 認証を使用している場合は、構成マネージャの特定ビューにポリシーを割り当てられません。
- 用意済みのポリシーを示す HP Universal CMDB Configuration Manager ユーザーズ・ガイドのセクションに表示される、実行するアクティビティの一覧が不正です。用意済みのポリシーのデータを検出するには、次のアクティビティを実行してください。
  - ソフトウェア - 基本
  - ソフトウェア - JavaEE
  - ソフトウェア - クラスタ

加えて、ディスクバックアップを実行して仮想化インフラストラクチャ、ネットワーク・インフラストラクチャ、レイヤ 2 トポロジのデータを取得しなければなりません。

- コマンド・ライン importCS ユーティリティを使用してインポートできるのは、コマンド・ライン exportCS ユーティリティを使用してエクスポートされたファイルのみです。
- 希に、CI への変更が UCMDB の履歴に記録されない場合があります。このような場合、CI が修正済みとしてマークされていても UI の変化を確認することはできません。これは、古い値が表示され続けることを意味します。また、CI はユーザが「承認」を行った後でも引き続き「修正済み」とし

てマークされることとなります。この問題は、最後の変更内容が UCMDB の履歴に記録されていない同じ問題属性に変更することで訂正可能です。

- UCMDB サーバと構成マネージャ・サーバの時間設定は、秒単位まで同期されていなければなりません。
- UCMDB サーバとサービス・マネージャ・サーバの時間設定は同期されていなければなりません。
- HP Operations Orchestration 側の SSL 証明書が無効または期限切れの場合は、フローは[自動化管理]モジュールのフロー・ツリーに表示されません。
- 特定の CI に複数の Composition 関係がある場合に composition CI のいずれかを承認しようとすると、特定 CI を含むその他すべての composition CI を承認するよう求められる場合があります。
- サマリーの表示レポートを非ラテン語系言語で PDF 形式でエクスポートする場合は、テーブル見出しの語は削除される場合があります。
- OO と UCMDB 統合のパスワードはデータベースで暗号化されるようになりました。あるマシンから構成セットをエクスポートし、別のマシンにインポートする場合は、必ず両方のマシンに同じ暗号化キーを使用してください。ソース・インストールからターゲット・インストールへと次の情報をコピーします。
  - **encryption.properties** ファイル(場所: <<構成マネージャのインストール・ディレクトリ>>/conf フォルダ)。
  - セキュリティ・ディレクトリのコンテンツ(場所: <<構成マネージャのインストール・ディレクトリ>>/security フォルダ)。

パスワード暗号化ユーティリティを使用して、**database.properties** ファイルの db.password キーを暗号化してください。構成マネージャの[設定]モジュールで、古い構成セットのパスワードを再入力してから構成セットを保存およびアクティブ化します。

両方のマシンでキーが同一でない場合は、構成セットをインポートした後に、構成マネージャの[設定]モジュールで、インポートした構成セットのパスワードを再入力してから構成セットを保存およびアクティブ化しなければなりません。

- 構成マネージャに追加した HP Operations Orchestration バージョン 7.51 からのフローを使用した場合は以下の問題が発生します。
  - 自動化を設定すると、[Single Value - Selection Lists]または[List of Values - Selection List]パラメータ・タイプを含がフローに含まれている場合は自動化リストにフローを追加できません。
  - 自動化を実行しようとしたときにパラメータ・タイプが[List of Values]の場合は、実行は失敗します。
- [Analysis Scope]に含まれる類似コンポーネント CI が多すぎる場合は[Environment Segmentation Analysis]モジュールのセグメント生成が失敗する場合があります(設定した類似レベルに基づく)。この問題を解決するには、次のいずれかの方法を使用します。
  - 範囲から CI を除外する
  - 類似レベルを上げる
- UCMDB の CI に行われた変更が構成マネージャに反映されない場合があります。UCMDB エラー・ログに次のメッセージがある場合は、初期化パターンの限度に達していることを意味します。そのメッセージは、**最大初期化パターンの制限 [3000] を超過しています!!!!** です。



- [System > Settings] モジュールの [Topology Layout] では、管理対象属性はレイアウト例外の場合にのみ入力可能です。
- リンクが承認され認証操作が正常に行われた場合、希にリンクが非承認と表示される場合があります。CI を再承認しようとするすると認証プレビューのダイアログが内容なしで表示される場合があります。

**回避策**：以下のように JMX を使用します。

- ビューを分析しコンポジット・リンク履歴の有効性を確認するには、次の手順を実行します。
  - **OfflineAnalysisJMX** の JMX にアクセスします。
  - **checkViolatingLinks** の操作を読み出します。
- すべてのビューを分析し不正なコンポジット・リンクを修正するには、次の手順を実行します。
  - **OfflineAnalysisJMX** の JMX にアクセスします。
  - **fixViolatingLinks** の操作を読み出します。

JMX へのアクセスの詳細については、HP Universal CMDB デプロイメント・ガイドを参照してください。

## コンテンツ・パック

### 注意事項

- **スキャナ・ジェネレータ**：スキャナが収集できるハードウェア・データの包括的リストについては、[/deploy/cp-docs/docs/eng/pdfs](/deploy/cp-docs/docs/eng/pdfs/DataCollectedByTheScanners.html) のファイル **DataCollectedByTheScanners.html** でブラウザを指示してください。
- **検出アプリケーション**：次の表に、文書内に記載された検出アプリケーションへの追加内容を示します。

ベンダ	製品	バージョン	資格情報	ディスカバリ...
SAP	CCMS Agent	6.4-0-7.3-0	シェル	CCMS インスタンス( RunningSoftware) , SAP ゲートウェイ, SAP システム, IpServiceEndpoint。
SAP	Host Agent	7.0-0-7.3-0	シェル	HostAgent インスタンス( RunningSoftware) , SAP ゲートウェイ, SAP システム, IpServiceEndpoint。
SAP	IGS	7.1	シェル	IGS インスタンス( RunningSoftware) , SAP ゲートウェイ, SAP システム, IpServiceEndpoint。

ベンダ	製品	バージョン	資格情報	ディスカバリ...
SAP	Virus Scan Server	1.7	シェル	SAPVirusScanServer, SAP ゲートウェイ, SAP システム, IpServiceEndpoint。
SAP	MaxD-B	7.x	シェル	ConfigurationDocument, DB データ・ファイル, Db ユーザ, データベース・スキーマ, IpAddress, IpServiceEndpoint, MaxDB, ノード, SQL バックアップ。
SAP	Hana DB	1,0, 1.5	シェル	ConfigurationDocument, データベース・スキーマ, DB データ・ファイル, DB ユーザ, DbLogFile, DbTraceFile, HanaDatabase, IpAddress, IpServiceEndpoint, ノード, RunningSoftware。
EMC	EMC AutoStart	5.x	シェル	ClusterResourceConfig, ClusterResourceGroup, ClusterResourceGroupConfig, ClusterSoftware, 包含, EMC AutoStart Cluster, IpAddress, ノード。

- **Universal Discovery エージェント, ソフトウェア使用率プラグイン, スキャナ, ソフトウェア・ライブラリ・サポート** : 次の表には, 修正されたエントリを示しています。

オペレーティング・システム	プラットフォーム	UD エージェント	使用率プラグイン	スキャナ <sup>1</sup>	ソフトウェア・ライブラリ
Ubuntu Linux サーバデスクトップ 10	x86, x64			x <sup>3</sup>	
Ubuntu Linux サーバデスクトップ 11	x86, x64			x <sup>3</sup>	

- **Microsoft Message Queue Discovery** : Microsoft Message Queue Topology by NTCMD Job Input Query では, SOURCE のエントリは「CI Type Equal ntcmd OR CI Type equal uda」と表示されます。
- **スキャナの改良点**

変更要求のグローバル ID	詳細
QCCR1C8395	Windows, Linux, Mac OS 上で USB デバイスの USB バージョン情報を収集できるようスキャナを改良しました。
QCCR1C19981	Solaris および HP-UX の追加メモリ設定形式を収集できるようスキャナを改良しました。
QCCR1C20172	Universal Discovery エージェントのファイル・プロパティに含まれているファイルのバージョン情報を持つよう Universal Discovery エージェントを改良しました (Windows のみ)。

変更要求のグローバル ID	詳細
QCCR1C32821	環境変数に定義された一次ディレクトリを検証するようスキャナを改良しました。無効な場合は、スキャナは Windows 上の現在の作業ディレクトリまたは UNIX 上の /tmp ディレクトリを使用してスキャン中に作成された一時ファイルを格納します。
QCCR1C32931	32 ビットと 64 ビットのアプリケーションを区別するよう Windows スキャナを改良しました。64 ビットのアプリケーションの場合、[hwOSInstalledAppVersion] フィールドに「(64bit)」というサフィックスが付きます。
QCCR1C33013	Intel vPro ドライバを検出するよう Windows スキャナを改良しました。情報は [hwAmtProvisionState and hwAmtVersion] フィールドに保存されます。
QCCR1C34220	Fujitsu Solaris の BIOS シリアル番号を検出するようスキャナを改良しました。
QCCR1C36127	SQL Server 2008 の各種エディションを区別するよう Windows スキャナを改良しました。
QCRQ1H19808	hwPhysicalDiskId が hwPhysicalDiskData の一意の識別情報であることを確認するようスキャナを改良しました。
QCCR1H65032	Solaris のビルド・レベル情報を検出するようスキャナを改良しました。

### 制限事項

- コンテンツ・パック 11.00 の **Layer 2 discovery by SNMP** への変更のため、CP 11 インストールの前後に検出された Layer 2 トポロジ間にはデータの不整合がある可能性があります。これを解消するには、UCMDB エイジング・メカニズムを使用するか、以前の CI を手動で検出する必要があります。
- **Host Resources and Applications Jobs** : 追加の [Host Resources and Applications] パラメータに **discoverInstalledSoftware** があり、このデフォルト設定値は **false** となります。このパラメータを **true** に設定すると、宛先マシンのパフォーマンスに悪影響がある可能性があります。
- **EMC Control Center (ECC) Integration** の問題 : 統合が失敗し、「Error: "ErrorCode [63011] Data container is larger than the defined fuse.» というエラー・メッセージが表示されます。解決策 : パラメータ **reconciliation.data.container.size.fuse** を 1M に設定します。

## モデリング

- フローが 2 つのコンタクト・ノード IpAddress と別のものとのマッピングで IpAddress 用にマッピングされた場合、IpAddress フローはフォーカスを当てると UCMDB ブラウザで確認できます。
- モデリング・スタジオでは、同じクエリに基づいて複数のパターン・ベース・モデルを作成することはできません。新規作成すると、既存のものが上書きされます。
- **[Must]** および **[加重]** フィールドが UCMDB スタンドアロンの IT ユニバース・マネージャの [New CI] と [Insert Relationship] のダイアログ・ボックスに表示されますが、これらは HP Business Service Management にのみ関連するものです。ドキュメント内のこれらのフィールドについての説明は無視

してください。

- フォントサイズが 14 ポイント以下の場合、廃止 CI タイプは取り消し線付きフォントでは表示されません。
- [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスの[ルーティング] タブ([レイアウト]>[レイアウト プロパティ])を選択してアクセス)ではすべてのオプションが利用可能なように見えますが、実際にマップのレイアウトで使用するには一部のみです。
- 影響分析 マネージャで、XML ファイルが既存の影響ルールと同じファイル名でインポートされた場合、既存の影響ルールを置き換える前にその名前の影響ルールがすでに存在していることを示す確認メッセージは表示されません。
- エクスポートの CI インスタンスが選択済み TQL に対して見つからない場合は、ページ当たり手動で最大 150,000 の CI を入力できます。
- モデリング・スタジオでは、表示またはクエリのために無効な XML ファイルをインポートしたときに情報エラー・メッセージは表示されません。
- 影響分析 マネージャでは、サブグラフを定義した影響ルールを保存しようとする、問題に関する詳細情報のない汎用エラー・メッセージが表示されます。
- [画面キャプチャ ツールを実行] を使用して半透明のグラフィックを印刷すると、品質結果が低下します。
- [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスの[階層的] タブ([レイアウト]>[レイアウト プロパティ])からアクセス)では、[Minimum Backward Edges] および[Optimize For Feedback Flow] のオプションは正しく動作しません。
- (ALR) 新しい表示システムは現在、ルール・ベースのテンプレートに基づく IT ユニバース・マネージャ経由の結果表示をサポートしていません。
- CIT インスタンスをネットワーク・ポート番号 プロパティとともに表示すると、ネットワーク・ポート番号はカンマとともに表示されます。このカンマは関係ありませんが、Java がシステムからの値を読むために表示されます。
- モデリング・スタジオまたは[レポート] モジュールの文字列を検索すると、[ハイライト表示] ボタンは、検出された文字列が最初に表示される時にのみハイライト表示されます。
- 計算された関係がエンリッチメント・マネージャまたは影響分析 マネージャで選択されると、[関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスの[修飾子] タブが機能しません(選択した修飾子は選択した関係に適用されません)。
- モデリング・スタジオで新しい TQL クエリに基づいてビューを作成する際、いずれかのクエリ・ノードに条件を追加してビューを保存し、ウィンドウを閉じずにビュー・トポロジを修正するとエラーが発生します。このエラーを回避するには、条件を追加してビューを保存した後にウィンドウを閉じてから、再度ビューを開いてトポロジに変更を行います。
- [要素インスタンスの表示] ダイアログ・ボックスにはフェデレート CI の外部アイコンは表示されません。
- モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタ[階層]表示枠には、TQL クエリのフェデレート CIT の外部アイコンは表示されません。
- バイト型の用意済みの属性を編集するとエラーが発生します。例えば、Attachment CI の AttachmentContent 属性を編集するとエラーが発生します。ユーザ作成属性は安全に編集できます。

- モデリング・スタジオで[パターン ベース モデル スケジューラ]ダイアログ・ボックスを使用して開始日時とパターン・ベース・モデル更新の繰り返し間隔を設定することができます。[日次パターンベースモデルスケジュールの更新]を選択し、繰り返し間隔を時間単位で設定します。[詳細パターンベースモデルスケジューラの更新]を選択し、cron 式で繰り返し間隔を設定します。
- マップ全体が表示されているときは、トポロジ・マップのズーム・アウト機能は表示されません。

## ユニバーサル・ディスカバリ

- ドキュメントは Universal Discovery Web サービスへのアクセス権限の最新の変更で更新されています。いずれかのメソッドにアクセスするため、ログインしたユーザには[ディスカバリおよび統合を実行]の一般アクション権限があります。
- **InventoryDiscoveryByManualScannerDeployment** アダプタのソース XML の表示中は、ユーザ・インターフェースに検証エラーが表示されますが、アダプタは正しく定義され正常に実行されています。
- Data Flow Probe をセットアップする際に CSV ファイルから不正な範囲をインポートした場合(開始 IP が終了 IP よりも高いなど)、エラーは表示されませんが範囲は保存されます。無効な範囲を手動で修正する必要があります。
- SQL プロトコル:[暗号方式]フィールドでは、Oracle 接続のために SSL サポートを選択することができます。
- SNMP プロトコル:プライバシー・アルゴリズムは DES と AES アルゴリズムの両方をサポートするようになりました。
- 新しい Data Flow Probe を、すでに別のドメインで定義済みの Data Flow Probe の識別名で UCMDB に接続した場合、新しいプローブをインストールする前に既存のプローブを UCMDB から([Data Flow Probe 設定]モジュールから)削除する必要があります。
- Data Flow Probe マシン上の過負荷を防止するため、同時に実行されているリモート・プロセスの数を制限することができます。DataFlowProbe.properties ファイルの [appilog.agent.local.services.maxRemoteProcesses] パラメータを見つけます。デフォルト設定値は無制限(-1)です。値を同時に実行可能な最大プロセス数に変更します。この値を変更した場合、プローブを再起動する必要があります。(この過負荷は、各宛先の Java プロセス(例えば J2EE や SAP ジョブなど)を起動する特定の用意済みジョブをアクティブ化する際に起こることがあります。)
- ダウンロードした jar ファイルによって、アダプタ・パッケージの他のすべてのリソースのダウンロードが完了する前に、プローブが再起動することがある。これを防止するため、リセット時間はデフォルト設定で 40 分となっています。この時間は次の手順で変更可能です。

DataFlowProbe.properties ファイルの

[appilog.agent.probe.restartProbeAfterJarDownload.interval]パラメータにアクセスします。初回リソース・ダウンロード時の再起動(つまり、初回起動の場合またはプローブ・データのクリア後)までの遅延は、10 ミリ秒である。

- [依存関係マップ]で選択済み CI のすべてのインスタンスを表示することを選択すると、インスタンスは表示されません。
- ディスカバリ・ジョブのエラーおよび警告メッセージはブラウザの言語設定に関わらずクライアントのオペレーティング・システムの言語で表示されます。

## インテグレーション

- EMC Control Center (ECC) のデータベースにはストレージ・アレイにアタッチされた FCHBA (ファイバー・チャネル・ホスト・バス・アダプタ) の WWN (World Wide Name) 情報は含まれていません。したがって、このディスカバリでは FCHBA CI の WWN 属性に HBA の ECC ID (ECC 内) が入力されます。このスクリプトでは、こうした FCHBA CI それぞれの **data\_note** 属性に、ECC には WWN 情報がなくこの CI は重複が可能であるという注記も付く。
- Oracle RAC サーバとともにインストールされた UCMDDB を使用する場合は、統合サービスは機能しません。
- 非 Jython ポピュレーション・アダプタの場合、自動で削除すべき CIT を [**<resultMechanism>**] タグではなくアダプタ構成 xml ファイルの [**<remove-cis>**] タグで指定する必要があります。

## 連携

- Reconciliation\_types.txt ファイル (汎用 DB アダプタ) は該当しなくなりました。どの CIT でも調整に使用できます。連携エンジンが自動的にマッピングを実行します。
- 外部データ・ソース (連携) からデータを取得する可能性のあるクエリー・ノードのプロパティ状態を設定し、状態がいずれのデータ・ソースからもサポートされていない場合は、TQL クエリー計算が失敗します。
- フェデレート・ノードは、データ・ソースが外部にしかない場合でもローカル CMDB からの不正な「候補値」を表示する場合があります。
- 統合ポイントが IT ユニバース・マネージャの CI センサでクエリーされている CIT をサポートしており、この統合ポイントが表示ラベル上の条件をサポートしていれば、結果は表示されません。

## レポート

- レポート内のハイパーリンクを有効化するには、[**エクスポートされたレポートのリンクを有効化**] のインフラストラクチャ設定を [TRUE] に設定します。エクスポートされたレポートのアイコンを表示するには、[**エクスポートされたレポートのアイコンを表示**] のインフラストラクチャ設定を [TRUE] に設定します。
- IT ユニバース・マネージャから [スナップショット比較レポート] を開くと、レポート生成前に [メールを送信]、[ダイレクトリンクの作成]、[レポートのエクスポート] ボタンが有効化されます。これらをクリックしても効果はありません。
- [構成 マネージャ ポリシーレポート] はバージョン 10.00 では利用できません。

## LW-SSO

LW-SSO の作業をする際のセキュリティの詳細については、『HP UCMDDB Hardening Guide』の「Lightweight シングル・サインオン (LW-SSO) 認証の一般的な参照情報」を参照してください。

## LDAP

- ユーザ・インターフェース経由での認証に加えて、API を使用した認証が LDAP ユーザ向けにサポートされています。

## 多言語サポート

- UCMDB のインストール時には[Korean language]オプションを使用しないでください。インストールは[English language]オプションを使用して行ってください。
- エクスポートやPDFでのプレビュー時には、レポートのタイトルやサブタイトルにマルチバイト文字は表示されません。
- バージョン 10.00 のアップグレード・ウィザードでは、英語以外のユーザ・インタフェースはサポートされていません
- 互換性のため、統合ポイント名およびデータ・フロー管理ジョブ名に使用できるのは英数字および下線(\_)のみです。
- 多くの UCMDB パラメータの最大文字列長はバイト単位で定義・記載されていますので、マルチバイト文字や言語固有文字を使用する場合に実際に許容される文字数はさらに少なくなります。
- エンリッチメント・マネージャでは、日本語、中国語、韓国語バージョンでは[Node Definition]ダイアログ・ボックスの必須属性が太字で表記されます。
- UCMDB インストール・パスまたはその他のプロパティやアダプタ・ファイルのパスには英語以外の文字を使用しないでください。
- ユーザ・パスワードにマルチバイト文字を使用しないでください。
- スケジュールされたジョブのアクション名はローカライズ済みの名前(使用ロケールに基づく)で保存されますが、これらの名前はロケールへの依存性なく表示されます。これらのアクション名は、ユーザにより修正が可能であるため、ユーザ固有のものとなります。
- マルチバイト文字を使用して電子メール設定を行うことができるようになりました。これらの設定は、インフラストラクチャ設定マネージャに移動されました。
- HP Universal CMDB では、サロゲート・ペアおよび結合文字は完全にはサポートされていません。

## 修正された不具合

次の表に、HP UCMDB 10.00 and HP UCMDB Content Pack 11.00 で修正された欠陥を示します。

変更要求のグローバル ID	詳細
QCCR1C20234	override.ini ファイルに格納されているフォルダ・エントリがUNIXで予期した通りに処理されない問題を修正しました。
QCCR1C36390	スキャナが誤ったファイルから VMware ESX バージョン情報を収集するという問題を修正しました。
QCCR1H37793	無制限の大量の複数データ・ストア tql クエリ計算の結果、の OOM が ODB 処理を停止する問題を修正しました。
QCCR1H38539	ドイツ語ブラウザのビューのピクチャ・エクスポートでエラーが発生する問題を修正しました。

変更要求のグローバル ID	詳細
QCCR1H61904	ノード OS ブレークダウン・レポートをドリルダウンすると OS 名のないノードに対して間違っただけの CI タイプが表示される問題を修正しました。
QCCR1H62699	結果が多い場合に XLS チャート・レポートへのエクスポートが重複する問題を修正しました。
QCCR1H63375	ドメイン・アカウントのログイン回数情報を収集するようスキナを改良しました。
QCCR1H63550	複数の NNMi サーバとの統合をサポートするよう NNMi 統合を改良しました。
QCCR1H64242	Ubuntu Linux の検出およびデータ収集をサポートするようスキナを改良しました。
QCCR1H65166	ディスカバリの実行対象である特定 IP が 1 つの資格情報範囲しか定義していないにも関わらず、ディスカバリ・ジョブの実行時または資格情報のチェック実行時に常に UC MDB が誤った資格情報(正しいものに加えて)を使用しようとする問題を修正しました。
QCCR1H65867	同じ名前だがタイプ/パスの異なる 2 つのレポートを同時に開くことができない問題を修正しました。
QCCR1H66347	アーカイブされた xls ワークシート名が、MS Excel で開く際にエラーがトリガされたことを報告する問題を修正しました。
QCCR1H66848	エンリッチメント・ルールを使用してホスト依存関係リンクを削除できない問題を修正しました。
QCCR1H66897	excel ファイルに列挙タイプ属性があると Excel Workbook ジョブからのインポートに失敗する問題を修正しました。
QCCR1H67172	資格情報の有効性とは無関係に Websphere 上の資格情報チェックが常に成功する問題を修正しました。
QCCR1H67666	ディスカバリが NTLMv2 構成をサポートしないという、NTLM 資格情報による MSSQL ディスカバリの問題を修正しました。
QCCR1H67859	AS400 ディスカバリ・ジョブが TQL 欠陥をトリガする問題を修正しました。
QCCR1H68033	VIM による VMware VirtualCenter Topology が AttributeError( _getitem_ error) で失敗する問題を修正しました。
QCCR1H68297	プローブがディスカバリ・サイクル中に再起動できないという、VMWare の UC MDB の問題を修正しました。
QCCR1H68361	ディスカバリによって MSSQL サーバのクラスタ化された名前付きインスタンスが報告されるという、Shell/WMI によるホスト・リソースおよびアプリケーションの問題を修正しました。
QCCR1H68401	Vmware Topology および SE 統合による Vmware ESX サーバ重複の問題を修正しました。



変更要求のグローバル ID	詳細
QCCR1H68442	MSSQL トポロジ・ディスカバリのパフォーマンス上の問題を修正しました。データベース・バックアップ・ファイルの報告を最適化しました。
QCCR1H68542	SSH-Telnet-NTCMD で使用する資格情報の順番が変更されるという、Host Connection by Shell の問題を修正しました。
QCCR1H68597	Oracle RAC Topology by Shell のディスカバリ・ジョブが「属性 'keys' を持つオブジェクト 'なし」で失敗する問題を修正しました。
QCCR1H68598	Oracle RAC Topology by Shell のディスカバリ・ジョブが「ホスト名の検索に失敗」で失敗する問題を修正しました。
QCCR1H68611	HP-UX で、VLAN ベースのインターフェースに IP が検出されないという、Host Connection by Shell の問題を修正しました。
QCCR1H69089	nonSNMP ノードが別ジョブで検出された Unix CI と統合されないという、UCMDB/NNMi 統合の問題を修正しました。
QCCR1H69118	[CI Types](タブ)>[CIT Windows]>[関連 CI パーミッションの取得]の権限を持つユーザに対して無効である関連 CI の取得が TRUE である問題を修正しました。
QCCR1H69182	「SNMP_Networking_Utils.py」の 10GB インターフェース期日エラーのために不正なインターフェース速度値がジョブによって報告されるという、Host connection by SNMP の問題を修正しました。
QCCR1H69185	既存の統合 TQL 名でパースペクティブ・ベース・ビューを保存する際に誤解を招くエラーメッセージが表示される問題を修正しました。
QCCR1H69486	管理対象サーバに対する J2EE ドメイン名検出中にジョブが失敗するという、Weblogic by JMX の問題を修正しました。
QCCR1H69581	「Import_DB」アダプタを改良しました。UCMDB に送信された CI のためのチャック・メカニズムを追加しました。
QCCR1H69642	タブ区切り csv ジョブからのインポートが正常に行われられない問題を修正しました。
QCCR1H69661	IpAddress CIT の ip_ismanaged attribute を廃止しました。
QCCR1H69741	その後のデータ・コンテナからの CI を持つ複数の一致グループを処理する際に NPE が発生する問題を修正しました。
QCCR1H69847	ホスト名にハイフン文字が付いている場合に「TTY による Service Guard Cluster Topology」ジョブが「バッファからのノード情報解析に失敗」エラーで失敗する問題を修正しました。
QCCR1H69915	LPAR リソース・ディスカバリのエラー (ImportError: モジュール Netlinks_Services がいない) の問題を修正しました。

変更要求のグローバル ID	詳細
QCCR1H70111	EView スクリプトによる iSeries が Traceback(モジュール Netlinks_Services が ない)で失敗する問題を修正しました。
QCCR1H70190	ジョブが netflow データベースへの SQL クライアント 接続を閉じないとい う, Network Connectivity Data Analyzer の問題を修正しました。
QCCR1H70250	非表示ファイル(Unix 上)が検出されないという, File monitor by shell の問題を 修正しました。
QCCR1H70286	「J2EE WebSphere by Shell」で「J2EE Cluster」と「WebSphere AS」の間に「メ ンバシップ」関係を作成できない問題を修正しました。
QCCR1H70416	「ディスクバリ・アダプタの結果処理中にエラーが発生しました。不正なタイプの queue_type 属性が報告されました」という, EView による MQ の問題を修正し ました。
QCCR1H70482	Oracle RAC ディスカバリが大文字小文字を識別しない問題を修正しました。
QCCR1H70551	Netflow コレクタのリリスナがサポートされていないパッケージの処理中に実行を停 止するという, Network Data by Netflow の問題を修正しました。
QCCR1H70667	VMWare トポロジ・ジョブが「属性 'getDevicePath' を持つオブジェクト 'なし」で 失敗する問題を修正しました。
QCCR1H70674	n/vPAR ディスカバリのコマンドが完全パスで実行されないという, HP nPartitions by Shell の問題を修正しました。
QCCR1H70747	含まれている認証によって JBoss 5.x に対するディスクバリが失敗するとい う, JBoss by JMX の問題を修正しました。
QCCR1H70751	TTY による Service Guard Cluster Topology ジョブの作成で Oracle CI が重複 する問題を修正しました。
QCCR1H70778	エイリアス・キュー MQ v 7.x by MQ by shell ジョブで発見されない問題を修正し ました。
QCCR1H70863	ディスクバリの進行状況 UI ステータスがトリガ(データを含む)の実際の状態を 反映しなければならないという問題を修正しました。
QCCR1H70935	異なる BIOS UUID が作成されたことにより Hyper-V および Host Connection ジョブが検出ノード CI と統合されない問題を修正しました。
QCCR1H71091	フィルタ関連 CI からの Field Running ソフトウェアもその子をカウントする問題を 修正しました。
QCCR1H71309	SAP Java Topology by SAP JMX ジョブが ClassCastException をスローしてい る問題を修正しました。
QCCR1H71393	「Lingered」CI によって HC および HRA が完了できない問題を修正しました。

変更要求のグローバルID	詳細
QCCR1H71595	interface_type 属性のサイズ限度に関するクラス・モデル検証エラーという、NNMi 統合の問題を修正しました。
QCCR1H71681	ID で大量のノードのインターフェースを処理する場合のデータインのパフォーマンス問題を修正しました。
QCCR1H71815	グローバル・パラメータを上書きしファイル転送操作の帯域幅制限を管理する [帯域幅制限] と呼ばれる新しいパラメータをサポートするよう、シェル・クライアントを改良しました。
QCCR1H71838	関係の方向が間違っているという、Mainframe_topology_by_SNMP の問題を修正しました。
QCCR1H72197	eView ディスカバリが「フレームワークにエラー・コード 101 を報告」というエラーで終了し CI が返されない問題を修正しました。
QCCR1H72231	IBM HMC 装置 ディスカバリで不完全な結果が返される問題を修正しました。ジョブはインタラクティブな IBM PSeries Frame に対して失敗します。
QCCR1H72296	「ls of -i -P -n」コマンドによる接続 ディスカバリで IPv4 接続のフィルタリングが不正であるという、Host Resources and Applications by shell の問題を修正しました。
QCCR1H72299	サポートあれている製品なし -Weblogic バージョン 8 というエラーでジョブが失敗するという、J2EE Weblogic by JMX の問題を修正しました。
QCCR1H72396	MS クラスタ化環境でクラスタ化された MS-SQL Server トポロジを正しく検出する機能についての問題を修正しました。
QCCR1H72515	「VIM による VMWare 仮想センター・トポロジ」について、UCMDB に送信された CI のためのチャンク・メカニズムを追加しました。
QCCR1H72590	ksh シェル制限 (コマンド・ラインに 256 文字) で Solaris (または別の Unix のようなシステム) 上のタイムアウト例外を起こすことができるという制限文書を追加しました。
QCCR1H72605	Host Connection by shell ですべての定義済み SSH プロトコルが使用されていない問題を修正しました (接続エラー: RSA キー・ファイルが壊れています)。
QCCR1H72609	ディスカバリ・ジョブ「J2EE WebSphere by Shell」が「org.jdom.input.JDOMParseException: ライン -1 エラー: 早期寿命」のエラーで失敗する問題を修正しました。
QCCR1H72610	ディスカバリ・ジョブ「J2EE WebSphere by Shell」のドキュメントに、ディスカバリが Websphere ディスカバリに使用する構成ファイルについての情報を追加しなければならない問題を修正しました。
QCCR1H72714	コア数が SunOS 5.9 で報告されない問題を修正しました。

変更要求のグローバル ID	詳細
QCCR1H72715	ハイパースレッディングが有効化されている状態で Windows 2003 システム上のコア数が間違っている問題を修正しました。
QCCR1H72759	結果 (ラック CIT) 処理中にジョブが失敗するという、HP SIM Integration の問題を修正しました。
QCCR1H72761	nPartitions Discovery の問題 (間違ったリンク作成) を修正しました。
QCCR1H72763	Service-Now 統合の一部のハードコードされた値の問題を修正しました。
QCCR1H72765	ディスカバリによって MSSQL サーバのクラスタ化された名前付きインスタンスが報告されるという、Shell/WMI による DB 接続の問題を修正しました。
QCCR1H72772	J2EE Web Sphere by Shell または JMX ディスカバリ・ジョブが壊れた web.xml を取得刷る問題を修正しました。
QCCR1H72922	HMC ボックス上の物理 CPU のコア数、速度、モデルの報告に関する問題を修正しました。
QCCR1H72989	Solaris ゾーン・ディスカバリの問題 (sudo ユーザによる zlogin 実行の問題) を修正しました。
QCCR1H73111	applicationSignature.xml の TIBCO BusinessWorks を識別する正規表現が例外をスローする問題を修正しました。
QCCR1H73143	更新のために参照 CI を移動しようとしたために infrastructure_service CI が最大 7000 ノードに接続されているために起こるロング・データ・イン操作の問題を修正しました。
QCCR1H73152	ジョブが仮想 CPU と物理 CPU を同じ ID で報告するために誤った CPU 統合が行われるという、SunSolaris 上の CPU の検出の問題を修正しました。
QCCR1H73322 QCCR1H74133	Network Connectivity Data Analyzer ジョブのパフォーマンスの問題を修正しました。
QCCR1H73410	Weblogic by JMX で、ジョブが MSSQL データベース・サーバの JDBC url 「jdbc:weblogic:sqlserver://」を正しく解析できない問題を修正しました。
QCCR1H73480	レイヤ 2 ディスカバリで唯一の直接の「サーバ・スイッチ」であるレイヤ 2 接続を報告刷る必要がある問題を修正しました。
QCCR1H73700	ドキュメントの問題 (Xen ディスカバリのサポート・テーブルのエラー) を修正しました。
QCCR1H73718	ドキュメントの問題を修正しました (UCMDB サーバが SSL プロトコルによって DDM プローブと通信している場合の SSL プロトコルによる Websphere/Weblogic ディスカバリについてトラブルシューティング情報を追加)。

変更要求のグローバル ID	詳細
QCCR1H73719	J2EE Jboss by Shell がデフォルト設定のサーバ・ベース・ディレクトリとデフォルト設定のアプリケーション・デプロイメント・フォルダ以外で JBOSS 5 を検出できない問題を修正しました。
QCCR1H73815	「Web サービスによる AWS」ジョブでデフォルト設定のリージョンのインスタンスのみが選択される問題を修正しました。
QCCR1H73829	ジョブ構成ガイドのエラー, wrapperEnv.conf を変更する際のステップの抜けといった、ドキュメント「Web サービスによる AWS」の問題を修正しました。
QCCR1H73884	SQL による DB2 接続で間違った DB が返される問題を修正しました。
QCCR1H74090	無効な XML ファイルが作成されるという、XML エクスポート・アダプタの問題を修正しました。
QCCR1H74130	シェルによる IBM HMC の問題 (IBM HMC v6 の LPAR プロファイル・ディスカバリの問題) を修正しました。
QCCR1H74267	Sybase が検出されないという、J2EE Weblogic by Shell の問題を修正しました。
QCCR1H74269	addressStr 変数が weblogic_discoverer.py スクリプトで初期化されない場合にジョブが失敗するという、J2EE ディスカバリの問題を修正しました。
QCCR1H74273	readlink コマンドが SunOS に存在しないという、J2EE Weblogic by Shell の問題を修正しました。
QCCR1H74300	CSV からのインポートで 0/false 属性値が設定できない問題を修正しました。
QCCR1H74302	CP10 の CSV からのインポートでいくつかのタイプの空の値を処理できない問題を修正しました。
QCCR1H74613	JDBC URL からの Oracle RAC ディスカバリの不正なアプローチという、Weblogic by JMX の問題を修正しました。
QCCR1H74868	クラスタ・ディスカバリ (HACMP アプリケーション・ディスカバリ) のエラーの問題を修正しました。
QCCR1H74871	SQL による SE 統合で作成された重複 CI の問題を修正しました。
QCCR1H74874	SHELL による Websphere MQ ジョブでデータの調整ができず、結果これを見逃してしまう問題を修正しました。
QCCR1H75032	スイッチ MAC アドレス表の解析中の不正なトポロジ報告という、レイヤ 2 ディスカバリの問題を修正しました。

変更要求のグローバル ID	詳細
QCCR1H75100	「PowerShell による Microsoft Exchange Topology」ジョブが、AD ノード [CN=Database Availability Groups] または [CN=Administrative Groups] に空白が含まれていない場合に失敗する問題を修正しました。
QCCR1H75188	Weblogic by JMX で、ジョブが Sybase jdbc url 「weblogic:sybase://<HOST>:<PORT>」を解析しない問題を修正しました。
QCCR1H75196	MS ドメイン・トポロジが MS クラスタを NT CIT として報告しており、結果 NTCMD による MS クラスタと重複する問題を修正しました。
QCCR1H75455	デフォルト設定で WMI/WMIC を使用したインストール済みソフトウェアの検出無効化の問題を修正し、オプションを false に設定すると win32_product クラスがクエリーされないようにしました。

